

# カイコに学ぶ

秋山 幸也

※相模原市立博物館学芸員



その2

カイコを飼うこと

—農業という仕事—



## ①衣食住のもとを作り出す仕事

前回、人間が生きていくためにどうしても必要な「衣食住」について少しお話ししました。今回は、衣食住のもとを作り出す農業という仕事についてくわしく説明しましょう。

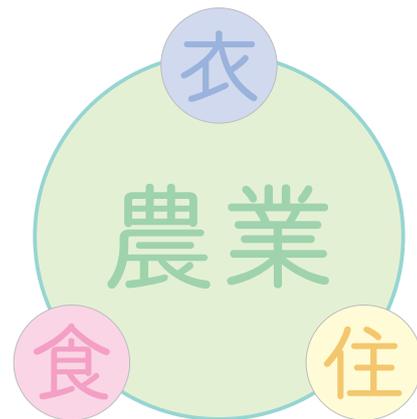
農業は、私たちの食べものである野菜や米、小麦などの植物や、肉となる動物を育てます。また、海や川、湖で魚貝類をとる漁業、住む家の材料となる樹木を育てる林業も、農業と同じように衣食住のもとを作り出す仕事です。農業はおもに、人間がしっかり管理できる場所を決めて、その中で植物や動物を育てます。農業も漁業も林業も、育てたものを収穫するのが目的の仕事です。

## ②カイコを飼うのは、<sup>まゆ</sup>繭になるまで

カイコは人間に育てられるようになって5000年くらいの歴史があると言われていて、それだけの年月、1年も休まずに人間はカイコを育ててきました。それはなぜかという、カイコが作り出す繭(まゆ)を収穫するためです。これが、人間が生きていくための「衣」のもとになるのです。だから、カイコを育てても、そのほとんどは繭をつくったところで命を止めてしまいます。つまり、繭の中でさなぎになったカイコを殺すのです。

ひどいことのように思うかもしれませんが、私たちはほかの生きものの命をいただくことで生きていくことができるのです。その命を大切に育てて、必要なところで止める仕事は農業です。

<sup>いしょくじゅう</sup>「衣食住」のもとを  
<sup>だ</sup>つくり出す<sup>のうぎょう</sup>農業



<sup>せいぢゅう</sup>カイコの成虫と<sup>まゆ</sup>繭



## ③命への責任

農業という仕事をする人は、育てている命をととても大切に扱います。たとえば、肉をとるための牛を育てている農家の人は、その牛をととてもかわいがります。そして大切に、病気にならないように気をつかいながら育てます。そうして育った牛は、大きく、りっぱに育ちます。カイコも同じように、たっぷり愛情をかけて育てると、大きな繭をつくってくれます。

カイコを飼うということは、ペットの飼育とは、目的がまったくちがいます。ペットの飼育は、ペットが生きる力をたもつ最後まで、一つの命を見届けなくてははいけません。でも、カイコを育てる農業では、収穫という目的にいちばんよいタイミングで命をいただくこととなります。ペットを育てるのも、農業としてカイコを育てるのも、どちらも命に対して責任を持つこととなります。ただ、その責任の持ち方がちがうのです。たくさんのカイコがそれぞれ大きな繭をつくるために、たくさんの命をあずかり、いただきます。たくさんの命に責任を持つ仕事が、農業なのです。

ようさんじよ  
養蚕所のようすて  
手のひらの うえ  
の上のカイコくわ は あた  
カイコに 桑の葉を 与えているようす

→その3

カイコを知ろう

— 体の形と模様 —